

平成20年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	医療系分野の学習を一貫して支援する本格的な統合型eラーニングの開発と実証		
法人名	学校法人滋慶京都学園		
学校名	京都医健専門学校		
代表者	理事長 近藤 雅 臣	担当者 連絡先	井野 由佳子 TEL:075-257-6507

1. 事業の概要

本事業では、専門学校入学者の基礎力低下傾向に対応するため、正規カリキュラムの授業運用を補完する学習支援ツールとして、eラーニングを活用した教育プログラムの開発を行った。特に、医療系学科の在学生や入学予定者に焦点を当て、その専門基礎力を強化するコンテンツを作成した。さらに、Web2.0型コミュニティサイトを装備し、今後広く活用が可能な統合型eラーニング基盤として整備を行った。

開発に先立ち、教育分野におけるオープンソースソフトウェアの現状やWeb2.0コミュニティサイトの専門学校における利用状況さらには教育利用への可能性について調査を実施した。そして、その分析結果を基に統合型eラーニングの開発を行った。eラーニングのコンテンツとしては、専門分野の学習や専門基礎力全般の基盤となる文章力に着目し、教育プログラムの開発を行った。さらに、開発した統合型eラーニングの効果や有用性を検証する目的で、実証実験を実施した。

2. 事業の評価に関する項目

① 目的・重点事項の達成状況

医療系をはじめとした専門学校では、企業や大学等に比べ、単に教材をeラーニング化する等の部分的な試みに止まり、今のところその効果も明確ではなく、eラーニングの導入が本格的に進んでいるとは言い難い状況にある。eラーニングの活用を促進するためには、教員や学習者の利用環境や実用性を配慮した機能の搭載やそれを統合的に管理できるシステム基盤を構築する必要があった。一方、若年層の基礎学力の低下が問題視される中、就職時に求められる実務スキル的高度化が進み、医療系分野の専門学校への要求レベルの高さと学生の学力とのギャップが拡大し、それを埋める効果的な学習方法が望まれていた。

本事業では、これらの問題の解決に貢献するために、企業・大学において活用実績が増えているオープンソースソフトウェア形態のeラーニングシステムに、専門学校生の特性に配慮した機能拡張を施すことで、専門分野における一貫した学習を支援できる本格的な統合型eラーニングの構築を実現した。

学習コンテンツとしては、このシステム基盤上に、専門基礎力(専門スキル習得上必要となる基礎力)全般の基本となる文章力に着目し、文章力強化のコンテンツの開発を行った。

また、参加型の共同学習・学内活動、学生同士の密なコミュニケーションなどを実現するWikiを核としたコミュニティサイトを整備し、今後広く活用が可能な統合型eラーニング基盤の構築をすることができた。

さらに、これら実施内容の有効性や有用性を検証するための実証実験を実施した。文章力(文章記述)強化プログラムの実証実験では、学生の非常に高い学習効果や満足度を確認することができ、有用性の確認を得ることができた。また、Wikiコミュニティサイトについても今後幅広く活用していく上での期待感を窺うことができた。

以上のことから、本事業による統合型eラーニングの開発と実証については、その目的を十分に達成することができた。

②事業により得られた成果

本事業では、統合型eラーニングシステム基盤の開発を実施し、コンテンツとして、専門基礎力全般の基本となる文章力に着目し、文章力強化プログラムの開発を行った。そして、その実証実験の結果では、非常に高い学習効果と有用性を確認できた。受講者の反応もかなり肯定的で、全般的に高い成果を確認することができた。さらに、受講者に文章力の重要性による問題意識を芽生えさせることができたことも大きな成果の一つである。

また、eラーニングの効果的な学習方法として、他の学生の作成した文章(解答)を要所で参照および評価することを可能とした。これは、eラーニングシステムに機能拡張を施すことで実現した。他学生の文章(解答)の参照・評価機能は、気づきの喚起や学習効果を高めることができ、今後のeラーニングの導入促進にとっても新たな成果であると考えられる。

一方、調査実態から、Wikiは、共同作業や協調学習に威力を発揮し、リンク構造を充実させることによって、思考的な整理や理解を深める上で効果的に働く可能性があることが確認できた。さらに、Wikiは、SNSやブログの機能も有しており、多目的に幅広く活用が可能である。そのため、Wikiを核としたコミュニティサイトは、学習や校内活動の促進、情報・意見の交換など効果的に活用していくことが可能であり、今後の成果も期待できる。

なお、今回開発したコンテンツと基盤システムによって構成される教育プログラムは、次の点で先導的であり、今後の同種の取り組みにも参考となる成果を挙げることができた。

- a. 素材となる文章は対象者の専門分野で扱う内容を記述したものにした。
- b. 学生同士が相互に評価をすることによって学習効果を引き上げる機能を実現した。
- c. 教員と学生が密度の高い連携を行える環境を整備した。

③今後の活用

文章力強化プログラム、Wikiコミュニティサイトの利用は、理学療法科昼間部2年に実施したが、理学療法科での活用を踏み台にして、さらに他学科への展開も図っていく予定である。

④次年度以降における課題・展開

文章力強化プログラムについては、文章記述・文章読解の初級コース、中級コース、上級コースとバリエーションを拡大していきたい。また、他の専門基礎力強化プログラムや専門分野のコンテンツの充実も図る予定である。

Wikiコミュニティサイトについては、サイト活性化の方策やWikiの特徴である共同作業・協調学習の面での利用などその積極的な活用を検討していく。

可能であれば、広く活用を促進するために学外の希望者に提供する体制を整えたい。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

統合型eラーニングシステム基盤の開発に向け、活用可能な基礎的な資料を収集・分析する目的で以下2項目の実態調査を実施した。調査結果は、教育プログラムの開発に資する基礎資料として活用した。

- a. 教育利用におけるオープンソースソフトウェアの現状
- b. Web2.0コミュニティサイト(Wiki、SNS、ブログなど)の専門学校における活用状況と教育利用の可能性

②教育プログラムの開発

本事業では、専門学校入学者の基礎力の低下傾向に対応するため、正規カリキュラムの授業運用を補完する学習支援ツールとして、eラーニングを活用した教育プログラムの開発を行った。特に、医療系学科の在学生や入学者に焦点を当て専門基礎力強化コンテンツを作成した。さらに、Web2.0型コミュニティ機能を追加し、今後広く活用可能な統合型eラーニング基盤として整備した。

本事業で実施した主たる開発内容を以下に示す。

- a. 教育プログラム構造の策定
eラーニング、Wikiを核としたWeb2.0コミュニティ活動等から構成される全体構造を策定した。
- b. eラーニングシステムにおける拡張機能の開発
オープンソフトウェア形態のeラーニングシステムとしてMoodleを選定し、専門学校生の特性に配慮した機能拡張を施した。
- c. 専門基礎力強化コンテンツの開発
専門基礎力の中から、全ての学習の基盤となる文章力に着目し、文章力強化コンテンツを開発した。
- d. Wikiを核とするコミュニティサイトの整備
参加型の共同学習・学内活動、学生同士の密なコミュニケーションなどを実現するWikiを核としたコミュニティサイトを整備した。

③実証実験

本事業で開発した統合型eラーニングの効果や有用性を確認する目的で、以下に示す実証実験を実施した。

- a. 文章力(文章記述)強化プログラム
対象学生: 京都医健専門学校 理学療法科昼間部2年: 35名
実証実験のアンケートでは、「文章に関するeラーニング学習」が有効であると回答した学生は、全体の97%と非常に高い結果が得られた。また、他のアンケート結果や解答結果からも、総じて非常に高い学習効果と有用性を確認できた。受講者の反応もかなり肯定的で、文章力(文章記述)強化プログラムが有用であるとの確証が得られた。
- b. Wikiコミュニティサイト
対象学生: 京都医健専門学校 理学療法科昼間部2年: 35名
実施期間: 平成21年2月4日～2月13日
「Wikiはクラスのコミュニケーションに役立ちそうですか?」というアンケート結果では、回答者の半数以上が「役立ちそう」であるとの結果であった。利用を開始したばかりの模索段階ではあるが、今後の展開へ向けての期待感を窺うことができた。

④その他

専門基礎力(文章力)強化プログラムは、以下の点に留意して開発を行った。

- a. 学習者が意欲的に取り組めるような柔軟なコンテンツの構成を創りだした。
- b. 医療系の専門学校生が馴染みやすいよう配慮した題材を採用した。
 - ・医療系に関する文章を題材とした構成
 - ・履歴書のPR文など身近で実用性の高いテーマを選定
- c. 他の学生の作成した文章(解答)を要所で参照・評価可能することにより、気づきの喚起や学習効果の促進につなげた。